

第一部国際協力分科会（第24期・第5回）議事要旨

日時：2019年12月25日（水）13:00～15:00

会場：一橋大学一橋講堂会議室201

出席：町村、齋藤、西條、上杉、中野、藤原、羽場、広渡、栗田、青木（スカイプ）、杉原（スカイプ）【以上、敬称略】

議題

(1) 前回議事要旨（案）の確認

第4回分科会の議事要旨が提示され、確認された。

(2) AASREC について

2019年9月24～25日にハノイ（ベトナム）で開催されたAASREC（アジア社会科学研究協議会連盟）第23回総会の模様につき、参加した町村委員、中野委員から報告がなされた。規模が大きく充実した会合であったこと、テーマ設定にあたっては日本も貢献したこと、各国ごとの立場・見解の相違はありながらも冷静な意見交換がなされ、有意義であったこと等が紹介された。事務会合で次期会長（オーストラリア）が選出されたこと、次回総会は2021年4月にオーストラリアで開催予定であることも報告された。

今後の予定として、役員選挙や、将来の総会開催地の見通し（2023年頃に日本が候補となる可能性があること等）等についても紹介された。

IFSSO について

IFSSO（国際社会科学団体連盟）第24回総会（トルコで開催）につき、上杉委員から、開催地から近いトルコ＝シリア国境地域での軍事的緊張が極度に高まったため、参加を中止せざるを得なかったことが報告された。また、新会長はトルコ、第一副会長は日本（上杉委員）、第二副会長はインドネシアから選出されたこと、これにより、慣例に従えば次回総会（2021年）の日本開催を打診される可能性が強いことが報告された。

ついで意見交換が行われ、日本学術会議が国際会議等を共催するにあたり、以前の検討の過程では、「IFSSOには10か国以上の学術団体が参加していないので、基準を満たしていない」等の指摘があったことが紹介された。同時に、人文社会科学系の国際会議に日本学術会議がより積極的に関与していく必要性についても議論され、IFSSO次期総会については、日本開催を求められる可能性があるという認識を分科会として共有しつつ、引き続き情報収集に努めて、合意形成をめざすことになった。

(3) 人文科学関係の国際会議等について

オーストラリア人文学アカデミー設立50周年を記念して2019年11月11日～13日にブリスベーンで開催された「人文学サミット」について、藤原委員から報告があり、プログラム、参加諸団体の紹介がなされると共に、得るところの多い会議だったことが報告された。

(4) 公開シンポジウムの件について

2020年3月8日に開催予定の公開シンポ「公共空間から考えるアジア」について、あらたに科研費基盤研究B「「高さ」を疑う、「高さ」を背負う——新しい都市ガバナンスの社会学」(研究代表者 町村敬志)が共催として参加することについて審議のうえ、了承した。あわせてプログラムや進行予定を確認した。

(5) 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019について

2020年2月28日開催予定の「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2019—グローバル時代の包摂を考える」について紹介があった。当該テーマに関する国際会議を人文社会系が中心となって開催することの意義や、今後の日本学術会議の国際交流、国際的発信の発展に資する活動であることが確認された。

(6) 今後の人文社会科学分野における交流について

次年度はAASRECやIFSSOの総会は予定されていないことを確認した上で、その他の国際会議の予定等につき情報交換を行なった。

(7) その他

今回の分科会は2020年3月8日午前中(公開シンポの前)に開催予定であることが確認された。